第2回　学校評議員会	2022年9月16日（金）
授業参観 9:40～10:10　　協議 10:10～12:00	

学校評議員　宮永 尚 氏 、山香 昭 氏、柳澤 好治 氏が来校し、教育実習を参観しました。

協議では、本校の実習制度、実習体制、実習評価に対して意見交換しました。その際、県教育委員会と連携して実施している初任者に対する追跡アンケートの結果をもとに、教育実習内容をブラッシュアップしている点に注目が集まりました。 また、全国学力学習状況調査の結果において、「異なる意見を持つ他者との協働」に関する項目が、全国平均を大きく上回っている点が話題となりました。データーに基づく取組の分析を行うよう、助言をいただきました。

附属小学校が育てる資質・能力を「子どもの姿」からとらえる（資料提供：大分教育事務所　山香所長）

本資料は、職員で共有するため、職員室に掲示しています。

令和４年度第２回学校評議員会　議事録概要（大分大学教育学部附属小学校）

１．日時

令和４年９月１６日（金）

１０：００～１２：００

２．場所

附属小学校会議室

３．参加者

（学校評議員）

宮永　尚 氏　　山香　昭 氏　　柳澤好治氏

村上　健 氏（欠席）

（附属小学校）

木村　典之／校長　　櫻井　弘美／教頭

眞田　貴弘／主幹教諭　　桐野　愛　／指導教諭

４．当日の内容

（教育実習について）

指導：本校では、現場の声を反映させた実習にするため、新採用教員にアンケート調査を行い、担任業務と教科指導のバランスをとった実習へと変化してきた。学部との連携では、１年生で教職入門ゼミとして学校参観、2 年生で模擬授業演習、3 年生で板書指導演習を行っている。

山香：授業を見ている他の実習生が授業記録を取っていたが、記録の取り方はどのように指導しているのか。

指導：1 週間の教育実習の際、視点を絞った上で、附小職員の授業を観察させている。例えば「発問に絞って観察するように」など、必ず視点を持って観察するように指導している。

山香：授業を観察する時は、子どもの事実の姿を記録し、疑問に思ったことを書いて、授業者に後で聞くことができる場があるといい。

主幹：放課後に担任も交えながら、授業中に感じた疑問や指導の意図について実習生同士で聞きあっている。

柳澤：実習生の授業を参観して、特徴的と感じたことは、題材にユニークなものを選んでいるということである。実習生の意欲を先生が認めてあげて、自主性を生かしながら進めていると感じた。廊下の掲示板にも、実習生の様子が分かる写真を掲示しており、学校が実習環境を整えていることが分かった。授業をしていない実習生も自分だったらどうするか、授業の中に入り込んでいて、効果的な時間の使い方をしている。

柳澤：指導案通りにならない、予期せぬ子どもの発言も受け入れていけるような授業づくりをして欲しい。現場に入った時には、たくさん出てくる。附属小の実習の時とは違う子どもの姿が現場にあることも分かっておくことが大切である。

柳澤：教育実習の改善に向けた新採用教員へのアンケート結果を見ると、平成 28 年から令和 3 年にかけて、違いが出ている。せっかくいいポイントが示せる材料がありそうなので、もう少し分析が必要だと思う。全国的な課題としては、ＩＣＴ活用であり、少し先のことを見据えた取組を進めて欲しい。

指導：ＩＣＴ活用に関しては、大学の授業でアプリを使用することが無い。実習生も実習に来て初めてアプリを扱うことになる。

主幹：実習生用のＩＣＴ端末を用意できないのが現状である。課題と捉えている。今後、大学にも整備のお願いをしていく必要がある。

柳澤：ＩＣＴ端末を教育実習の必須アイテムとすれば、大学も導入に向けて考える必要が出てくるかもしれない。

宮永：半日担任を行う実習に変えたことで、実習生の負荷が減ったのか。それは附小独自の取組なのか、国や県の指導によるものなのか知りたい。

主幹：附小独自なのか、国や県の指導によるものなのか、変更した当時の職員が在籍していないので、わからない。

宮永：実習でできることは限られている。一個人としての授業の精度を上げることよりも、学校の流れを掴むことに力を入れようということか。

指導：教科指導だけにとどまらず、学級担任の一日の流れを経験できるようにしている。教科指導のベースである学級経営を学ぶためにも、必要な経験と考えている。

宮永：今日の実習生の授業で、子供たちにとって分かりやすいキャラクターを教材として使っていた。実際の現場で使用することはあるのか。

柳澤：特定のキャラクターを宣伝しているのではないかと疑われるような使用の仕方は危うさがある。だが、興味関心を引こうとしている点については、よかった。

宮永：今日実習生の授業で見たキャラクター等は、実際の現場ではあまり使わないかなと思った。工夫をしようとしていることはよく分かった。

主幹：著作権については、実習生自身まだまだ分かっていないところがある。教科書を使用して、普通に授業ができるようになることがまずは大切であることを伝えていきたい。

主幹：教育実習の今後のあるべき姿について意見をいただきたい。

柳澤：全国的な課題だが、教育実習が終わった後、教員を目指さなくなる人がいる。「学校の先生は大変そうだ」と感じてのことだと思う。現場の先生方のしっかりとした姿を見せることは大切であるが、一方で厳しいことばかりが伝わってしまうと、才能有る若者が諦めてしまうことにつながりかねない。担当の先生方も実習指導後に、自分の準備で遅くまで残らないように、まずは先生達自身が明るく健康でいることが大切だと思う。

山香：実習生は宝である。みんなで育てていって、みんなでいいところを認めていくことが大切である。教育実習を受

けているみんなに教師になって欲しい。

宮永：今は、分けて実習するのが当たり前になっているのか。

主幹：本年度から４週間の実習を１週間と３週間に分けて実施している。

宮永：分けて実施した方がよさそうな気がする。空いた期間に学校と学生は関わりがあるのか。

指導：１週間の実習と３週間の実習の間に、大学の授業で１コマ指導教諭が講義を行っている。

（学力調査について）

指導：全国学力調査の平均正答率を他附属学校と比較すると国語、算数ともにそれぞれ 4.2Ｐ高かった。県との差もそれぞれ 18Ｐ高かった。国語で出題されたような話し合いの学習活動を日常的に行っているので、子供たちにとっては、日常の経験が問題として出たと感じたと思う。質問紙では、「自分にはよいところがある」、「先生は認めてくれている」の項目などが全国平均と比べて高く、顕著な差が見られた。

主幹：学力調査の結果については、一喜一憂していない。授業改善の方向性についてのチェックの道具と捉えている。本校における学校改革前の結果と比べても、現在の結果から、授業改善の方向性は大きく変える必要は無いと考えている。

柳澤：令和３年度、４年度は、前ほど結果が出ていないとも読み取れるが、何か要因はあるのか。

主幹：平成 30 年度までは各教科それぞれＡＢ問題であるため４つの正答率の積み上げとなっている。令和３年度以降は、ＡＢと分かれていないため、それぞれの正答率しかないため、過去と比較した時、低くなっていると分析している。

柳澤：令和３年度より、令和４年度の正答率が高いことについての分析はどのようにしているか。

主幹：6 年生は、5 年生の時に県独自の学力調査でよい結果を出していた。6 年生での学力調査もよい結果が出ると予想していた。しかし、予想以上によい結果であって驚いている。

柳澤：なぜよい結果が出たと考えているか。

主幹：ひとつは、安心安全な学校生活を大切にしていることがあると思う。

柳澤：出題傾向が附属小学校に合っていたということはあるのか。

指導：日頃の授業で経験している場面が、そのまま調査問題に出ていた。「お互いの良さを認めあいながら話し合いを進めていく」ことなどは、日常的な学校生活や授業の中で行われている。

柳澤：いろいろな分析の仕方があるので、正解は無いと思うが、今の時代に必要な力が付いているかどうか国としてもはかろうと思って調査を行っていると思う。大分大学はデータ分析が上手いので、大学に協力してもらって分析してもいいと思う。それを公表などして効果的な取組を広めていくことも附属の役割の１つである。

主幹：大学に分析してもらえたら大変いいし、その分析結果を公表できれば、地域の学校の役に立つと思う。

山香：「違う意見を言うことが楽しい」の項目が高いところに注目している。意見が違えば大人でも楽しくないことがある。議論が授業の中で行われているということだと思う。「一番当てはまる」の割合が全国と比較して高いことが、本校の強みと思う。

指導：子供たちが自分たちで課題を立てた授業作りに取り組んでいる。今後も授業づくりの視点を活用にも当てながら取組を継続していきたい。

宮永：過去と比べて授業改善を行った結果、学力に変化が現れているが、質問紙を見ると、この部分が高いと、学力が高くなる、というようなことは分かりにくいのかなと思った。ただ、子供たちは楽しく過ごせているなと感じた。学校に来ることが楽しいか、のような質問はあるのか。

指導：質問紙の項目として設定されている。全国と比較してもとても楽しいの割合が高い。

宮永：日常のコミュニケーションがしっかりできているということだと思う。

校長：データが附属だけの共有になっているので、教育センターと共有したり、大学と共有したり、一緒に取り組んでいかなければならないと思っている。

主幹：学校の取組を少しずつではあるがホームページに掲載している。また、教師の基礎的基本的な指導技術を動画で掲載して、これまで以上に、地域の役に立てるように取組を進めているところである。

（学校評価について）

主幹：知識・技能、思考・判断・表現それぞれＳ評価を付けている。その他については、第３回学校評議員会にてしっかりと説明していく。

（その他）

柳澤：今のコロナ禍の流れで、今後、教員採用が前倒しになるなど、なんらかの動きがあることが予想される。民間の採用が早まっている中で、教員だけ現状というわけにはいかないと思う。そうなると今後は実習のスケジュール等に影響が出てくるかも知れない。来年度からの話とはならないかも知れないが、近いうちの動きとなる可能性があると思う。

柳澤：ＩＣＴ活用については、上越教育大学附属中学校の取組が先進的である。１０月にオンラインで教育研究協議会を実施予定なので、時間が合えば是非参加するとよい。

（文責）主幹教諭　眞田　貴弘